

# とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	北区立田端保育園

## 1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

自然の音

＜テーマの設定理由＞

日当たりの良い園庭には四季折々の草花や実りがあり、そこには様々な生き物が生息しています。ビオトープにはメダカやエビ、どじょうやタニシ、ヤゴが生息し、春にはカエルが訪れて卵を産み、オタマジャクシがカエルになり巣立っていきます。近隣には沢山の公園もあり、日々の保育の中で自然を五感で捉え、様々な遊びに取り入れて楽しむ姿が見られます。また、田端保育園は自分の感情を安心して表出でき、それを言語化できる環境を作り、職員が子どもたちと対話を重ねる保育を行っています。今回、毎年行っているドングリや木の実でのマラカス作りで楽しんでいる、「自分たちで作る音」に着目し、子どもたちの感じている事、楽しんでいる事をより理解し、共感し遊びを広げていきたいと考えました。

## 2. 活動スケジュール

### 4.5月 「自然の音探し」

園庭、散歩で木、石、砂、水、風、ナズナ（ペんぺん草）等で遊ぶ中で音を探し楽しむ

### 5.6月 「自然物を使った遊び」

枝、石、木の実、等を容器に入れて転がしたり鳴らしたりして遊ぶ

・容器の素材、大小、形状 　・内容物の量、大小 　・振り方　　より変化を楽しむ

### 7.8月 「自然の音（虫や水、風等）」を楽しむ

・カブトムシ、鈴虫の動き、飛んだ音、虫の音 　・風鈴の音、風の音

・雨やプールでの音、樋に水を流す音 獅子落として水の落ちる音

・聴診器を使い体内音、木の幹内音等試して聞く

・なぜ音がするか顕微鏡で見てみる

### 9~12月 「自然の音作り」

・葉を舞わせたり踏んだり握ったりする音 　・音を楽しむ場作り 　・マラカス作り

・樋を組み合わせて遊ぶ

（長く繋げる、傾斜をつける、樋から飛び出す落下音、着地する場作り）

・講師による音創り

・様々な物を使い、音を表現し劇ごっこ（風、雨、足音等）

## 3. 探究活動の実践＜活動の内容＞

園庭に子どもたちが試したり工夫したりできるよう、様々な容器や箱を用意しました。また、散歩では子どもたちが木の実や枝、葉や石などを集められるようにマイバックを作り出かけました。そのことにより、好きな容器を選び取り、自分が集めた自然物を入れ、音を聞き分け、自らの好きな音を創り出していました。そこで室内でも音を試して遊べるコーナーを作ったり、静かに音を聞き入りたい子が楽しんだりできるコーナーを作りました。じっくり音を聞く環境を作ることにより、音の違いをより一層感じ取ることができている様子でした。

子ども達はマラカスの音から様々な音に興味を示し、水の音にも興味を示したので雨の音を楽しんだり、ビニール

シートの天蓋やビニール傘を準備したりプールで試して「聞こえる音」を友達と言葉にし合っていました。さらに樋に木の実が転がる音を楽しみだったので樋を支えるフックや高さを調節するダンボールや木の積み木・樋同士を繋げる洗濯バサミや養生テープを常備することで長く転がすことができ、転がすものによって異なる音や落下音の変化等を楽しむ姿が見られました。

これらの活動を通し、肯定的で受容的なかかわりの中、見つけたことや気づいたこと感じたことを保育士に伝える姿がありました。その後、繰り返し試したり聞いたりしていく中で友達とも一緒に行き、さらに発見や気づきを共有する姿が見られた。「またやりたい」といった声が上がった際に、設定を変えたり、道具や素材を増やしたことで子ども達自ら工夫して遊ぶ姿や音の変化に「この音さっきとちがう」「こっちの音より高い」「この音のほうが好き」等気づいて試す姿が見られ、だんだんと子ども達だけでも道具や素材を見つけたり、保育士に欲しいものを提案したりして探究するようになりました。



#### 4. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

自然の音をテーマに園内研究として職員全員で取り組み、子どもの姿や声に対しどのような援助が望ましいか様々な意見や案があがり、それを各年齢で実践することができました。その中で大人も子どもも音への関心が深まり、感じたことの言語化を繰り返し行う中で様々な考え方・感じ方の受容をする風土が生まれてきました。はじめは保育士が設定や準備をしていた環境も、だんだんと子ども同士で必要なものを探したり、提案したりしながら試す姿へと結びついていきました。そして自分の面白いと感じた音・好きな音を選び取り楽しむ姿に出会うことができました。さらに保育士が子どもの声に意識を傾けることで、子どもの問い合わせや疑問、気づきを引き出していくことがより、探求心に繋がっていくことも実践を通して学ぶことができました。今後も自然の音への興味や関心を子ども達と一緒に、耳を傾けたり、共有したりしながら、探求心が広がるようにしていきたいと思います。